

天文学とプラネタリウム 第19回

天文イラスト投稿受付中！詳しくはウェブサイトで。

天プラ企画書 on 星ナビ

－ 北の大地でサイエンス・カフェ －



高梨直純（東大D1／天文学教育研究センター所属） 平松正顕（東大D1／国立天文台ALMA推進室所属）

天文学会では春と秋の年に2回、年会が開催されます。いわゆる“学会”というやつで、全国から天文学研究者が集結して日頃の研究成果を発表し合います。今年の秋季年会は北の大地、北海道の札幌市で行われたのですが、それに合わせ天プラメンバーの多くが札幌に集結するというので、以前このコラムでも取り上げたサイエンスカフェを札幌で開催して来ました。今回はこのサイエンス・カフェがどんな様子だったのか、ご報告しましょう。

サイエンス・カフェ@みんたる

今回の北海道出張では、サイエンス・カフェを全部で2回行いました。まず私たちが行ったのは、地元のレストラン“みんたる”でのサイエンス・カフェです。学会初日の夜、学会での発表を終えた私たちは、北大すぐ近くのレストラン“みんたる”に向かいました。“みんたる”は気さくな女性オーナーの経営するネパール料理を中心としたお店。お店のサイズ的には決して大きくないのですが、その分アットホームな雰囲気の中で楽しくしゃべることができました。トークした内容はすばる望遠鏡とその最新の成果についてだったのですが、お店に集まった人たちが熱い！様々な質問が盛んに飛び交い、参加した天プラメンバー一同大変充実した時間を過ごせました。終了後には、ゲリラ観測隊「天の川急便」の皆さんが望遠鏡で秋の星空を楽しませてくれるというおまけつき。充実充実。

サイエンス・カフェ@札幌紀伊國屋

その2日後、今後は札幌紀伊國屋の1Fフリースペースをお借りし、北海道大学科学技術コミ

ュニケーター養成ユニットと共催でサイエンス・カフェを開催しました。こちらのサイエンス・カフェでは、メインゲストに星ナビでも連載中の渡部潤一さんを迎え、「地球外生命は存在するか」というタイトルでトークしていただきました。会場に集まったお客さんはざっと150人！来るのは30人くらいだろうと予想していた私たちにとっては予想外の驚きです。渡部さんのトークの他にも、大学院や大学で天文学を研究している学生によるミニトークや、会場にいらしたお客さんと天プラメンバーがざくばらんに天文学について語り合ったりと、予定の2時間はあっという間に過ぎてしまいました。残念ながらお茶を片手にゆっくりと天文学を楽しむという雰囲気ではありませんでしたが、こちらもまた大変盛り上がりって充実感でいっぱいです。楽しかったなと。

この“みんたる”と“札幌紀伊國屋”で行ったサイエンス・カフェ、規模や内容は違えどどちらも大成功だったと思います。今度は関東や関西でもやりたいなあ。どなたか、興味ありませんか？（笑）



札幌駅前の紀伊國屋でサイエンス・カフェの様子。当日は、コーヒーお買いあげの方には天プラ特製の銀河コースターも配布されました。



天プラメンバー謹製の箱と戯れる平松（左）。何に使うものかは次号をお楽しみに。ハワイ島にあるハワイ大学88インチ望遠鏡(UH88)のリモート観測室で超新星を観測中の高梨（右）。



www.tenpla.net